

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県感染症対策協議会、神奈川県新型インフルエンザ等専門委員会		
開催日時	令和2年1月31日（金曜日） 17時30分～19時30分		
開催場所	神奈川県総合医療会館4階 第1会議室 （横浜市中区富士見町3-1）		
出席者	<p>〔委員〕◎は会長○は副会長 ◎森委員、○多屋委員、阿南委員、あらい委員、北澤委員、小松委員、笹生委員、鈴木委員、立川委員、辻委員、角田委員、土岐委員代理、船山委員、和田委員</p> <p>〔県（事務局）〕 前田健康医療局技監兼保健医療部長 森健康危機管理課長、健康危機管理課課員、衛生研究所所員</p> <p>（事務局オブザーバー） 高崎衛生研究所所長、保健体育課課員、佐々木鎌倉保健事務所長</p>		
次回開催予定日	令和3年2月予定		
問合せ先	<p>所属名、担当者名 健康医療局保健医療部健康危機管理課 感染症対策グループ 新</p> <p>電話番号 045-210-4791 ファックス番号 045-633-3770</p>		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要と した理由	
審議経過	<p>開会 （事務局）</p> <p>定刻となりましたので、ただ今から神奈川県感染症対策協議会・神奈川県新型インフルエンザ等専門委員会を開催いたします。私は本日司会を務めさせていただきます、神奈川県保健医療部健康危機管理課長の森と申します。よろしくお願ひいたします。はじめに、本日の配布資料につきまして、まず協議会の次第がありまして、名簿、座席表のほか本日の設置要綱とか、傍聴要領がございます。その後に資料がございますが、最終的に資料6までございます。また参考資料についても配布させていただいております。資料等無い場合は挙手いただければすぐに配布させていただきますので、よろしくお願ひします。会議開催に当たり、保健医療部長の前田より一言お願ひしたいと思ひます。</p> <p>（前田部長）</p> <p>みなさんこんばんは。県の健康医療局技監兼保健医療部長の前田と申します。本日はお忙しい中、感染症対策協議会に御出席いただきましてありがとうございます。本日、報告事項といたしまして、新型コロナウイルス肺炎の発生があります。神奈川県におきましては、国内初ということで、県民への広報ですとか県庁内の対応、そして医師会、病院協会をはじめといたします関係機関との連携、そういったものを深めながら、この新型コロナウイルス感染症に対して、対応してまいりたいと考えておりますので、本日はこの対策の推進にあたりまして、忌憚のないご意見をいただければと思っております。また、東京2020オリンピック・パラリンピック大会開催に向けたリスク評価、そして神奈川県の麻しん・風しん対策、そして新型インフルエンザ等対</p>		

策における住民接種といった議題もございますので、本日は充実したご議論をいただきますよう、よろしく願いいたします。本日はよろしく願いいたします。

(事務局)

次に、傍聴者についてご報告させていただきます。お手元の資料の運営要綱がございますが、この中で傍聴に対する規程がございますので、よろしく願いいたします。本日、一般傍聴者が1名、それと報道関係者が5名というかたちで傍聴いただいております。また、今回の協議会については、報道関係者2社から撮影・録音の申し出がありましたので、この傍聴要領に基づきまして、後に選出される会長にご判断をいただくかたちで進めさせていただきます。

本日の議事進行ですけれども、報告事項として、神奈川県内における新型コロナウイルス肺炎の患者の発生について、それから議題につきましては、次第記載の3つになります。また、4報告事項については、毎年皆さま方にご報告させていただいております、神奈川県感染症の発生動向を予定しております。それぞれテーマごとに事務局から説明をさせていただきますので、ご議論いただきます。

本日は17時30分から開始し、2時間を予定しておりますのでよろしく願いいたします。

はじめに委員のご紹介ですけれども、本日は報告事項、議題が多数ございますので、お配りしました座席表のとおり、名簿のとおりということで、ご紹介を省略させていただきたいと思っております。また、オブザーバーの方も同様でございます。

続きまして、当協議会の設置要綱・運営要綱の第4条におきまして、委員の任期が2年と定められております。昨年の4月に改めて新規の方にはお願いしましたので、その後初めての会議ということで、この要綱の第5条第2項の規程に基づきまして、会長及び副会長を選任させていただきたいと存じます。誠に僭越ながら事務局に方で推薦をさせていただきたいと考えております。我々事務局といたしましては昨年度に引き続き、会長には東京医科歯科大学大学院教授の森委員に会長を、副会長には、国立感染症研究所感染症疫学センター第三室長の多屋委員をお願いしたいと考えております。皆さまいかがでしょうか。

(異議なし)

ご賛同いただけたということで、会長は森委員、副会長は多屋委員とさせていただきますのでよろしく願いしたいと思います。

続きまして会議の公開・非公開についてお諮りしたいと存じます。附属機関等の設置及び会議公開等運営に関する要綱に基づきまして、公開としたいと思っております。よろしいでしょうか。

続きまして議事録についてお諮りいたします。附属機関等の設置及び会議公開等運営に関する要綱第5条第3項に基づき作成が義務付けられておりますが、事務局といたしましては発言者氏名を記載し、発言内容の全てを記載させていただき形式をとりたいと存じますがいかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、感染症対策協議会を始めさせていただきたいと存じます。これからの議事の進行につきましては森会長をお願いしたいと思いますので、森会長お願いいたします。

(森会長)

みなさんこんにちは。東京医科歯科大学免疫難病講座の森雅亮といたします。事務局の方からありましたように、報道関係者の方2社いらっしゃるようで、頭撮りの申し出がありますので、傍聴要領により、会長権限で許可したいと思っておりますが、皆さまよろしいでしょうか。

(異議なし)

ありがとうございます。それでは報道関係の方は、頭撮りをお願いいたします。

それでは早速議事に入りたいと思います。今回は色々な報告事項も含めて2時間で進めさせていただきたいと思いますので、是非ご協力をお願いいたします。

では、冒頭の報告事項であります、神奈川県内における新型コロナウイルス肺炎の患者の発生について、事務局より説明をお願いいたします。

【森健康危機管理課長が資料1及び参考資料に基づき説明】

(森会長)

森課長どうもありがとうございました。それではコロナウイルスの概要と県の対応についてお話いただきましたけれども、ただいまの件についてご意見、ご質問等ございましたら発言をよろしくお願いいたします。

(笹生委員)

対応について、マニュアル等を周知していると思いますが、各医療機関においてある程度マスクだとか N95 マスクだとか防護衣とかを備蓄しているところもあれば備蓄していないところもあると思うのですが、問屋さんに一切そのようなものが無くなってしまっている状況で、そのような方が来た場合にマスク、予防衣、消毒薬が無いと困るので、供給について県と協力していきたいと考えたのですが。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。県の医師会の皆さま方には色々と情報提供させていただいているところですが、今後もそのようなかたちでやらせていただいて、特にマスクの問題とかは今後供給の関係とかが出てきますので、緊密な連携をお願いしたく、別途相談させていただきたいと思います。

(森会長)

他にいかがでしょうか。

(角田委員)

釈迦に説法となりますが、こういう時は社会不安がこわいので、一番は過度に心配させず、かつ十分な防護ということで、科学的な今わかっている知識で、今のところは過度に心配する必要は無いと感染症の2つの学会でも出ていますので、そういうところのご配慮というのも常に念頭においてご対応いただきたいと思います。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。まさにそのとおりだと思いますので、そういったことを心がけてやっていきたいと思います。

(森会長)

他にいかがでしょうか。

(あらい委員)

先ほど資料の方でも、今日の厚生常任委員会の資料が配布されており、まさに本日厚生常任委員会でこちらの新型コロナウイルスの対策についても審議してまいりましたけれども、委員の色々な質疑の中で、神奈川県には6つの保健所設置市があるということで、そちらとの連携とか色々な医療機関との連携ということで今日この会議があるからというお話でしたけれども、今も随時情報提供いただいているとは思いますが、今後はこういった会議を随時開いて情報提供を行うという認識で良いでしょうか。

(前田保健医療部長)

できるかぎり情報提供は密にしたいとは思っておりますが、基本はメールベースで行っていきませんが、節目節目にこういった face to face の会も必要に応じてまた開催させていただければと思っております。

(鈴木委員)

相模原市の鈴木ですが、今話題に出た県と他の自治体との情報交換ということで申し上げますと、県の方からご指導いただいている、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。相模原市としては、県と十分連携をとらせていただいているので、改めてお礼を申し上げたいと思います。私からは別の質問なのですが、別紙2の方で県の方で専用ダイヤルを開設していただいたということで、これについても県民に対する相談体制を整えるということで大変ありがたいと思っているのですけれども、その中で一般の方から武漢に滞在して熱が出たとか咳が出たとかで、受診可能な医療機関はどこかといったような問合せがあった時に、具体的にどの医療機関だとか、どこの地域にお住いだからどこに行った方が良いとか、具体的な紹介をしているのかどうか、もしわかれば教えていただきたいと思います。

(前田保健医療部長)

基本的に別紙2にありますとおり、疑い例のある健康相談は今のところ0でございます。中国の武漢以外のところから帰国されて症状があったという方は何人かいらっしゃいます。実際にその内容に沿って、かなり疑い例に近い方につきましては最寄りの保健所もしくは保健福祉事務所に相談の上、医療機関を受診してくださいというようなかたちでお伝えをしているところでございます。

(鈴木委員)

ありがとうございます。

(森会長)

他にいかがでしょうか。とても神奈川県としては、先生方からのお話にもありましたとおり、随時リアルタイムで動いてくださっていると認識していますけれども、何かご質問がある方はいらっしゃいますか。よろしいですか。私から1点だけございますが、この専用ダイヤルに関して、ここで答えられにくいことがあった場合、例えば最初の時に医療機関はどこかという時にも、医療機関の実際の名前を言った時に、相手の医療機関の方もちゃんと認識しているかどうかとか、こういう点のような答えにくいことに関しては一旦受けて、データがうまくまわったらお返しするとか、そういうことでなくてリアルタイムリアルタイムでお返ししているのでしょうか。

(森健康危機管理課長)

やはり相談される方は凄くご心配になられてますので、間違えた情報を提供したり、誤解を与えるような部分は出来るだけ避けないといけないので、その内容においてすぐ確実な部分で提供されるものは即座にやりますけれども、そうでないもの、ちょっと調べた方が良いというものにつきましてはその旨お伝えして連絡先をお伝えいただいた場合にはそこに連絡をかけて、「こうですよ」といった対応をさせていただいているところです。

(森会長)

わかりました。十分な対応だと思います。よろしいですか。

(角田委員)

ちょっとしたことなのですが、今マスクが非常に品薄になっているということなのですが、例えば N95 マスクは付けること、適切に使うことが凄く難

しいし、使ったから凄く息苦しくなる。N95 マスクの使い方ということもあるでしょうし、あともう1つ気になったのは、中国語対応はされているということですが、外国の方だと英語の対応が気になる場所かなと思うのですが、その辺は中国語で現時点では十分だとお考えなのでしょうか。

(前田保健医療部長)

前段の N95 マスクは、普通のマスクよりはウイルスについて防御効果があるということですが、実際には使い辛いこともございます。そういった点も出来るだけ情報提供していきたいと思っています。またホームページ等での外国語対応ですけれども、今日本語と英語と中国語でやってございますし、あとドイツ語とかも今後増やしていくと、それが外国語ホームページから東京デイトリップへのリンクを5ページ目の下を書いてございますが、その言語対応には、今日の午前中の厚生常任委員会でもスペイン語も必要ではないかというご指摘もいただきましたので、そこは関係する国際文化観光局と相談いたしまして、出来るだけ多言語も、多くの言語に対応できるようにうまく改正していきたいと思っております。

(角田委員)

既に英語での対応は開始されているということですのでよろしいですね。

(前田保健医療部長)

英語ではホームページでも開始しておりますし、対応はしてございます。

(保健体育課員)

神奈川県教育委員会保健体育課のアカザワと申します。多言語の対応の中で、生徒に向けてはやさしい日本語でルビをふる、ユニバーサルデザインのフォントを使ってということを中心に学校で通知するようにしていますので、できれば参考資料の中で日本語にルビをふっていただいで、やさしい日本語で医療用語をやさしくしていただいで通じる部分もありますので、ご検討いただければと思います。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。この辺はまたお願いいたします。

(森会長)

他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは続きまして議題1に移りたいと思います。東京 2020 オリンピック・パラリンピック開催に向けた感染症対策について、事務局より説明をよろしくお願いいたします。

【健康危機管理課職員が資料2に基づき説明】

(森会長)

今実は私は見直し案をいただいでいるのですが、これはまた皆さまにお渡ししてご意見をいただいでということですのでよろしいですね。

(健康危機管理課職員)

はい。

(森会長)

後で回覧させていただきますけれども、神奈川県では5つの競技が行われることになっています。セーリング、野球、ソフトボール、サッカー、それから自転車ですね。江の島のヨットハーバー、横浜のスタジアム、横浜総合競技場、それから富士のスピードウェイですね。そして選手村として、セー

リングが大磯のプリンスホテルを借りると、それから事前のキャンプの誘致は14か国の受入れ団体が神奈川県を使うことで、また実施の予定施設もそれぞれわかっています。これらのホームページは、神奈川の2020の事前キャンプ誘致等委員会、こちらの方で宿泊施設含めてオープンになっているということでございますので、こういう面を皆さまに見ていただかないといけないかなと思います。

私が見せてもらった感じでは、多屋先生と私は拝見したことがあるのですが、よくまとまっているなという感覚もあるのですが、気付かない部分もあるかもしれないので、是非皆さんのご意見をいただければと思います。

(森健康危機管理課長)

本当は今日の段階で皆さまにお示ししたかったのですが間に合わなかったため、この後こちらで取りまとめまして、皆さまのところにメールでその辺のことを送らせていただきます。ご意見をいただいて、その上で反映させていただきたいと思っています。冊子については、森会長と連携をお願いしたいと思っていますのでよろしくお願いしたいと思います。

(森会長)

時間的には、どのくらいで冊子を配って、どのくらいで意見収集をするご予定ですか。

(森健康危機管理課長)

2月の中旬くらいにはお配りできるということで、あと皆さまもお忙しいと思いますので十分時間をとってご意見をいただいて、できれば今年度中にそういうものを作っておきたいと思っていますのでよろしくお願いしたいと思います。

(森会長)

わかりました。ありがとうございます。今回覧いたします。

(笹生委員)

2ページ目にある、麻しん・風しん、侵襲性髄膜炎菌は予防接種で防げるということなのですが、大会のボランティアとかそういう方達に接種の機会を与えるとか、そういったことはお考えでしょうか。

(前田保健医療部長)

今回のオリンピックの関係で、大会ボランティアと市民ボランティアとあるのですが、大会ボランティアの方はオリンピック・パラリンピックの組織委員会の方で行うということで、内閣官房のオリンピック・パラリンピック推進室の方からは伺ってございます。それについて、今回かなり補正予算を獲得したという話も伺ってございます。以上です。

(森会長)

ありがとうございます。

(笹生委員)

市民ボランティアは神奈川県で対応するのでしょうか。

(前田保健医療部長)

内閣官房の方が来られた背景としては、その市民ボランティアの方もきちんとワクチン接種して欲しいというような要請を受けました。実際に麻しん風しんMRワクチンということでございますので、まず成人の男性の方について対象年齢の方はクーポン券を用いた接種もできますし、後は対象年齢で無い方でも保健所に行ってくださいと受診していただくと。対象年齢はいく

つか区切っていますが、クーポン券が確か 37 歳から 57 歳で、その前後の年次については県の単独の事業も設けてございますので、そういった制度を活用してボランティアの方に出来るだけ接種していただくということを今後進めていきたいと思っております。

(笹生委員)

ありがとうございます。もう 1 つの侵襲性髄膜炎菌については、同じですか。

(前田保健医療部長)

まだ麻しん風しんの段階となっています。

(森会長)

今感染症学会の中で、ホームページを見ていただいたらと思うのですが、私も関与しているので、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのクイックリファレンスというかたちで、それぞれの疾患とボランティアの方に何が必要かという表を作っております。やはり実際のところ、一番心配なことはやはりワクチンを皆さんが打ちたいと思った時にワクチンが無いとかそういったことだったのですが、製薬会社にお話しをお聞きしたところでは、一応十分な量はあるという回答をいただいておりますので、もしそのような要望があれば、25,000 円くらいすると思うのですがご希望のある方もしくはボランティアの方はしていただいた方がよろしいのではないかと感染症学会では考えております。

こちらの表を含めて何かご質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

(角田委員)

別のことで話したと思うのですが、やはり日本という国は神奈川県も含めてホストになって海外の方をもてなすと、友好を深めることが一番だと思いますので、このようなリスクアセスメントは非常に大切なことで前提となりますが、海外から来ると感染症のリスクが上がって迷惑だというマスコミの風潮もみられますので、そういうところをリスク評価で正しく、気持ちよく成功に導くようにしていただきたいと思います。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。今のようなご意見をいただければ非常にありがたいですし、我々も正確な情報を皆さまに発信していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

(森会長)

ほかにいかがでしょうか。

(あらい委員)

リスク評価を行っている時点では、先ほどお話にもあった新型コロナウイルスに対しては出てこなかったの載っていないとは思いますが、新型コロナウイルスについては他のものと同じという認識で良いのでしょうか。オリンピックの時期まで新型コロナウイルスが収束しないのではないかという懸念が今出ているのですけれども、その辺についてはどのようなお考えなのかうかがいたいと思ひます。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。元々は今から 2 年程前にこの協議会の中でもリスク評価書というかたちで提案させていただいて見ていただいたと。その中でオリンピック開催の競技とか合宿所等が定まったということで改めて作り直している部分もありますけれども、そういう中では今お話いただいた新型コ

コロナウイルスの関係というのはまさに入っていませんでしたので、少しそういうのも含めて考えていかないといけないかなと考えている次第ではあります。ただ、未知な部分も多いので中々難しいところはありますけれども、今日いらっしゃる専門家の方のご意見もいただきながら検討を進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(森会長)

まさしく先生に仰っていただいたように、その部分を外してだとリスク評価にならないと思いますので、情報が確実になるとか、国の体制がどうなるのか、その辺を踏まえながら記載を加えていくのがよろしいのではないかと思います。多屋先生何かございますか。

(多屋副会長)

情報が日々刻々と変わっている中ですので、もう少し情報をしっかり把握して適切な内容をリスク評価の中に入れていった方が良いかなと思っています。

(森会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは今も少しお話のありました、神奈川県麻しん風しん対策、ちょうど横にいらっしゃる多屋副会長が非常にご尽力いただいていることもあるので、また後でコメントもいただきたいと思っておりますが、まずは事務局から説明をお願いします。

【健康危機管理課職員が資料3に基づき説明】

(森会長)

ありがとうございます。それでは質疑の方に入りたいと思います。どなたかご質問のある方はいらっしゃいますか。

(角田委員)

衝撃というか非常に残念という結果だと思います。麻しんに関しては土着というか国内の中の感染が封じ込められたということになっていたはずなのですが、今年の人数をみると、多屋先生にお伺いした方が良かったかもしれませんが、土着のものが出てきたのかなと思います。それはいかがでしょうか。

(森会長)

多屋先生お願いします。

(多屋副会長)

今のところ、海外で感染して日本に連れて来られて発症する方が多くて、それが毎週複数である。特に海外での流行が去年非常に大きくて、その前の年の3倍以上の報告数が出て、たくさん子ども達も亡くなっている状況なので、持ち込まれて、皆さまの御尽力で抑え込んでいただいている状況なので、土着のウイルスが出来ているという認識は今のところはないです。52週が0で今年の1週が1人、2週が1人、3週が0ということなので、その中の1人は海外での感染例ですから、いったんそこでは切れていると考えています。去年は特に関西の方で大きな流行があって全国の数も700を超えて排除認定後は最も大きいのですが、何とか年末に連鎖は途切れたかなと思っています。ただ、必ず持ち込まれて毎週持ち込まれているので、持ち込まれても大丈夫にしていくのが、今日本に求められているところかなと思っています。

(角田委員)

そうするとやはりこの予防接種率が増えたというご説明がありましたけれ

ども、やはり7市町村程度では、当然全市町村が95%ずつ超えているような状況じゃないと、特に先進国ということの名乗るには恥ずかしい結果と、昔から言われていることですが、油断するとすぐ土着が広がってあっという間に昔のおりということになってしまうと。これは大変なことだと思いますので、是非より一層の努力をお願いしたいと思います。それから衝撃的というか去年からニュースになっていましたけれども、風しんの方で感染が多くなって幸いにして神奈川県では先天性風しん症候群は0であったということですが、全国で4名も出てしまった。これはやはり我々上の世代が努力を怠っていたがために生まれてくる新しい生命に重い障害を負わせてしまったという責任になりますので、この辺もより推進していく、より危機感を持たないといけないかなと思う。神奈川県でも0ですけども、この人数の増え方を考えるといつ出てもおかしくないということなので、何とか麻しんは排除を続け、風しんは少なくとも先天性風しん症候群0を継続するというのを絶対の目標にして取り組んでいかないといけないかなと思います。

(森会長)

先生どうも貴重なご意見をありがとうございました。本当に先生が仰っていたとおりではないかなと思います。多屋先生何か情報を含めてお話をいただけますか。

(多屋副会長)

実は今年の第2週に今回の流行の影響を考えられる5人目の先天性風しん症候群の赤ちゃんの報告がありました。届けられたのは別の県なのですが、推定感染地域が神奈川県というふうに届けられておりまして、流行規模が大きくなるとどうしてもそういうことが起こってしまうと思いますので、何とか第5期の接種率向上にも繋げていただくと嬉しいなと思っているところです。その方は診断はおそらくされていないとは思いますが、風しんはあまり典型的な症状が全部揃わないこともあるので、流行を起こさないということがやはり大事なかなと思います。

(森会長)

ありがとうございました。他にご意見ご質問がある方はいらっしゃいますか。

(笹生委員)

第5期の接種率が非常に低くて去年のクーポンも使えるとのことですが、ぜひとも神奈川県の方から再勧奨をしていただけるようにご意見を言いただくと助かります。

(森健康危機管理課長)

風しんの関係につきましては、市町村の会議とかその都度我々のやる会議の中では感染症を担当している会議も含め必ずこの風しんの課題をあげて取り組みの部分強く訴えたりしています。今国の方の追加的対策の関係につきましては、厚生労働省の方から色々再勧奨のところとかもう少し上げていかないといけないというところとかがあって、市町村の状況とかも取りまとめたりしてお話も聞きながらやっていく中で、市町村の方も悩んだりしますので、また医師会のお話も聞きながら、また2月の中旬くらいには市町村の方を集めた会議もやりたいと思っていますので、意見交換しながら向上に向けてやっていかないといけないと思っておりますので、お力をお貸しいただければと思います。

(森会長)

今のクーポン券の件、今課長の方からもありましたように市町村の方々にも働きかけた中で、神奈川県内での実情も把握された方がよろしいのではな

いかと思います。そういったものは何かございますでしょうか。

(健康危機管理課職員)

ご意見ありがとうございます。各市町村に対して、今後の風しんの追加的対策をどのように進めていくかといったアンケートをとっている状況でございまして、例えば再勧奨をどういう風にやっていくとか、その後県内市町村全てに共有させていただきたいと思っていますので、ご意見ありがとうございます。

(森健康危機管理課長)

追加ですが、状況を把握しそれをお返しすることで、こういうところはこうやっているんだということを見てもらって、考えていただきたい。そのようなところで進めさせていただいておりますので、その一環としてのアンケートということでご理解いただければと思います。

(森会長)

よくわかりました。多屋先生、今国の中でのクーポン券の状況についていかがなのでしょうか。

(多屋副会長)

クーポン券の使用率は毎月厚生労働省が取りまとめて私どもの方に送っていただいております。風しんの緊急情報を毎週ホームページに掲載しているのですが、1か月に1回このグラフを更新させていただくようなかたちで公表させてもらっています。ちょうど来週火曜日2月4日風しんの日ということで、2月を予防強化月間にしようということで、2月4日今年もまた今回は有楽町の駅前でイベントを行うんですけれども、中々40歳から57歳のクーポン券の対象者の方は、クーポン券を送っていただきましたかと聞いてもどこにあるかわからないという方がかなり多くて、もう1回その存在を知ってもらう必要があるかなと思いましたことと、オリンピックまでには麻しんと風しんを予防した方が良いよと言うためには、きっかけとしては来年度の人がいつクーポン券が各自自治体の方から送っていただけるのかなとか、あと今年度3月まであと2か月しかないの、そこで受けて貰いたいのですが期限が切れてしまったクーポン券はどうなるのかなとか、そんなことが市町村の方には情報を共有していただいて、できればオリンピック・パラリンピックまでに対象者の方がまずクーポン券を使っていただきたいなと思っています。神奈川県は大きな企業もたくさんあるので、その企業の中で対象者の方に日中の勤務時間帯でもクーポン券を持って医療機関に行っても良いよと言ってくか、あるいは企業内診療所があるのであればそこで使わせていただけるとか、何かきっと神奈川県であれば出来るということがたくさんあるのかなと思って期待しているところです。

(森会長)

ありがとうございます。多屋先生が2月4日はキャンペーンとしては大きなお話だと思いますし、ちょうどあそこにも「風しんにさよならを」というとっても良いポスターが貼ってありますので、そういう風にしてオリンピック・パラリンピックを迎えられたらと思っていますので。また状況の中から共有するものがあるようだったらご提示いただければと思います。

(佐々木鎌倉保健事務所長)

神奈川県としては10.3%ですが、市町村ごとにみると凄く使用率が高いところと低いところの差はあるのか。大体総じて市町村全体が1割くらいなのかということはおわかりするのでしょうか。

(健康危機管理課職員)

お答えいたします。国の追加的対策の実績報告というものがあまして、市町村別にあげていただいております。今お手元で示せるものは無いのですが、市町村別の実績については把握することが出来て、ただ私が把握している集計が終わっている範囲だと軒並みどこも低いかなという状況でございます、そこまで差が出ているふうには感じておりません。

(森会長)

ほかに何かございますでしょうか。

(角田委員)

クーポンに関しては上位5自治体の取組というのを挙げられているので、この中でどれか神奈川県に適用できる、一番適したものを採用する、先ほどアイデアがあればというお話でしたが、実際に高い自治体があるので、この実績があるところから、神奈川で何かできることはないかということを検討されているのかどうかというのが1点と、それから定期接種状況で、前からお話しているとおり地理的な状況もあるのですが低いところは何故低いのか、あるいは地理的条件が無いにもかかわらず今一つ低いのはどこで、どういう経緯があるのか等の分析と、県として例えば県内市町村の達成状況で1期2期95%以上達成、今年度24、9、7ということですけど、例えば2019は終わりですけど2020年度には目標値をどうするか、目標値を県として設定して、本当は全市町村が95%を超えるのが望ましいですけれども、何か目標値を立てることを今後やっていかなくはいけないのではないかと思います。それはいかがでしょうか。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。まず1点目の上位5自治体の取組状況についてですが、長野県がまさに我々がこれからやろうとしていることに近いのかなというところで参考にさせていただくとともに、この下にもあるとお風しん予防推進協力法人が課名しているところに働き盛りの方がいらっしゃいますので、そういう方々にクーポン券、風しん抗体検査に活用していただくということで、長野県なんかは非常に参考にしているところでございます。あと目標を定めるというお話ですけれども、非常にありがたいお話で今度市町村の集まる会議でもやはりこれだけ低いのはどうなのかという実情の分も聞きながらそういうようなお話もさせていただいて、皆でこれくらいというのが出来るかどうか、そういったことを検討していきたいと思っております。ありがとうございます。

(角田委員)

国内の排除というところで我々にも油断が出たのかなという感じなので、今の現状だと海外からの輸入例を防ぎえないということになっていますので、そこを何とか防げるようなレベルに上げるにはどうしたら良いのかということを考えないといけない時だと思いますのでよろしくお願いします。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。

(森会長)

とても貴重なご意見だったと思いますけれども、他にどなたかご質問おありの方はいらっしゃいますでしょうか。

(鈴木委員)

相模原市の鈴木ですが、接種率を上げるのはとても大切なことで今お話のあったとおりののですが、私なんかは相模原市にいて政令市なので県の立場

と市町村の立場というのは両方わかるので、要するに麻しんの発生数とかあるいは風しんの発生数とかは県の立場でサーベイランスをするのでわかるのですが、一方で予防接種をする班があるのでその立場がわかるということなのですが、実際に市町村の方々からすれば予防接種のことは一生懸命やっているのですが、逆にいうと自分のところの町や市でそのくらい麻しんや風しんが出ていて、どういう傾向があるのかということのをどこまで理解しているのかということがあると思う。今日資料3で見せていただいて両方の発生数接種率がわかりやすく出ていて、これを見ると頑張れば発生率が下がることがわかるのですが、どうしても行政としてどちらかの立場に偏ってしまうことがあるので、今後県の方から市町村の方に説明会等あった時に、やはりそれぞれの市町村の麻しんとか風しんの発生状況等もできるだけわかりやすく丁寧に説明していただくとインパクトがあるのではないかと思いますので、時間があればよろしくお願ひしたいなと思います。

(森会長)

事務局の方はいかがですか。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。参考にさせていただいて検討させていただきたいと思ひます。

(森会長)

先生が今仰っていたように、数字を出してもらうことで、特に比較するということではないですけども、どのくらいの位置にあるとか、どういう状況なのかは非常に把握しやすいですね。そのため、時間があるようでしたら、出していただくのが一番よろしいかと思ひます。他にはいかがでしょうか。よろしいですか。次の議題の方にまいります。議題(3)の新型インフルエンザ等の対策における住民接種について、事務局の方からご説明をよろしくお願ひします。

【健康危機管理課職員が資料4に基づき説明】

(森会長)

ありがとうございました。今の事務局からの説明にご意見ご質問等ございましたら発言をどうぞよろしくお願ひいたします。

(角田委員)

実施要領の主な内容の中に医療従事者の確保というのがあるのですが、医師の確保や看護師の確保なんか市町村によっては難しいところが出るのではないかなと思ひますが、その辺をどのように県が市町村を支援していくかというお考えはいかがでしょう。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。住民接種の関係については市町村の方がその要領に基づいて行う、県としても医師会と調整しながらどうやって確保していくかを考えていきます。今回これを出す一番大きな理由は、住民接種に関して新型インフルエンザということで示されているのですが、中々市町村の中では具体性がなくてどう取り組んで良いのかわからないものとなっています。また実施要領を読んでいくと今のような医療従事者の確保とかもあるのですが全体として、県内の中でも進んでいるところと全然進んでいないところがあったりと。我々県としては進んでいないところにどのように支援していくのかというところが、今回これを出した理由となります。実施要領は書面のもので、皆さんそれを読んでもイメージが沸かないところがありますので、専門家の方々にこういうことをしていけばいいのではないかと

たようなアドバイスをいただければ非常にありがたいという次第で今日提出させていただきました。我々も手探り状態という中でやっています、これまでの議題とは異色なのですが、ご意見いただければと思っております。

(森会長)

実施要領のQ&Aに入っている具体的なものがここで述べられている主な内容と理解してよろしいですね。

(健康危機管理課職員)

お答えさせていただきます。掲載させていただいているのは2番の実施要領の主な内容についてというところで、Q&Aで示されているところとしては、主な検討方法、事項について、Q&Aでは中々わかりにくいような回答になっているところもございまして、Q&Aで示されているのはもちろん実施要領の主な内容については網羅しているのは確かなこととさせていただきます。

(森会長)

こちらに載せてもらっている主な内容として反映されているのは、Q&Aから事務局の方が抜粋してきたものだと理解してよいでしょうか。

(健康危機管理課職員)

実施要領の主な内容については実施要領から抜粋させていただいて、主な検討事項については実施要領のほか、もちろん実施要領も見させていただいたのですが、これまでの市町村における会議の話題とかそういったところも参考にして主な検討事項というところを作成させていただきました。

(森会長)

わかりました。今のご説明の上でご質問ご意見ある方がいらっしゃったらお願いいたします。

(角田委員)

臨床をやっておらず非常に僭越ではありますが、前回新型インフルエンザ、今季節型に変わったわけですけれども、その時の予防接種の状況、そして住民接種を行わなければならないような必要性が出たということです。そしてこういうことを行う。前回は確か流行った時は出来ていませんから、医療関係者だけで去年やりましょうと。どうしてもタイムラグが出来るので、問題はスペイン風邪のような強力なやつが出てきた場合に住民不安が出るので急遽一気にワクチンを、多分限界があると思うのですが、なるべく早くやって欲しいということで計画を立てなければいけないということだと思っておりますね。そうするとやはり一番参考になるのは、前回の1年目の、正確に言うと流行してから2年目の予防接種の体制がどう構築されたか、それを住民全体に可及的速やかにやるにはどうしたら良いか。前回の2回目の新しいインフルエンザに対する予防接種をどう実施したかを前回の経験で学んで、それを速やかに実施するにはどうしたら良いのかと。市町村の方の説明にはやはり前回の2回目の速やかに行政としてやるというように説明したら良いのではと思うのですがいかがでしょうか。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。2回目のところを調べて市町村に流したりとか、そういうこともしていきたいと思っています。

(森会長)

とても的確なご指示だったと思うのですが、実際に何をしてどういう問題があったかその時に振り返らないと難しいと思いますし、実際にその時に皆さんで知恵を絞ったということもあると思いますので、先生のお話はとても

良いのではと思いました。他にご意見ある方はいらっしゃいますか。

(鈴木委員)

相模原市ですが、うちの方では新型インフルエンザの関係で医療体制の計画を作るのと、住民接種をするということでそれについての検討を行ってきているのですが、今大変貴重なご提案があって過去の経験をまず最初に見て、それで今回の計画を立てれば良いというのは、まさしくそのとおりだと私も思うのですが、うちでも検討会をやって10年前は何をやっていたんだということで委員の先生方から言われて、ただ当時の職員は誰もいなくて記録は残っているだと皆で探すのですが、割と断片的なものであってお互い顔を見合わせて医師会の先生が初めてあの時はこうやっていたよと、長年地域で活躍している医師会の先生から言っただけでかなりうるおぼえであることが問題点として挙げられるのと、実際住民接種というのはどの自治体でもそうだと思うのですが、医師会の先生型あるいは専門の先生方のご意見を十分聞かないと進まないで、その組織づくりというのが一番手始めにやらないといけないので、その辺何か県の方でお手伝いできれば良いのではないかと思います。

(森会長)

事務局の方がいかがですか。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。我々も10年前にというところで、ここにいる職員も全員経験していない、そういう風なことなので、申し訳ございません。そういう記録とか、県庁の中でも聞いたりしながら1つ1つ、その時の課題やこうすれば良かった、またもう一度やるならこうすべきだとか、そういった話を聞きながらやっていきたいと、また市町村の方々とも会議の中で、あの時はこうだったと覚えている方もいらっしゃいますでしょうから、そういったところで情報を共有していく方法もあるのかなと、今お話を聞きながら思いました。ありがとうございます。

(森会長)

医師会の先生方は本当に直面してその時に色々お困りになられたでしょうから、そういった先生方からの聴取はとっても大事なことではないかなと思います。

(森健康危機管理課長)

ありがとうございます。

(森会長)

貴重なご意見どうもありがとうございました。他にありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでしたら次が報告事項の神奈川県感染症の発生動向について、こちらを事務局からご報告お願いいたします。

【衛生研究所所員が資料5に基づき説明】

(森会長)

どうもありがとうございました。それでは全体をみられてのご意見やご質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。

(角田委員)

何個かあるのですが、結核なのですが、日本全体の傾向としてなだらかでありながら、じわじわと落ちてきているという状況がずっとあったと思うのですが、それが神奈川県にいたっては一応かろうじて減少傾向は保っている

か、それともはや横ばいになってしまったので何らかの対策をしなければいけないのか、そちらの方の見解はいかがでしょうか。腸管出血性大腸菌感染症について 20 代が多いという話で、特に o-157 が気になるのですが、20 代が多い疫学的特徴、20 代が生肉いっぱい食べるといったリスクが大きいような問題点があるかといったことを把握されているかが 1 つですね。もう一つ急性脳炎に関してインフルエンザからというのが多くて、インフルエンザも立ち上がりが多くて今下がりつつあるので、たまたま流行時期がずれたのか、急性脳炎になった事例が適切な受診、抗インフルエンザ薬の投薬を受けていたかという分析がなされているかどうか、最近新聞とかマスコミで出るのが抗インフルエンザ薬は治癒を 48 時間早めるにすぎないとか書くマスコミがある。それは自然に治るものだと。それは運が良ければ自然に治るけれども悪ければ脳炎になるか肺炎になるか大変なことになると。そういった間違った知識は影響している可能性があるかもしれないなど危惧を覚えているものですから、そういったことで脳炎になった事例で適切な治療が行われていない事例があれば警鐘を鳴らさなければいけない事例だと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

(森会長)

それでは 3 点についてご説明いただければと思います。

(事務局)

結核については田坂の方からお話をさせていただきたいと思います。

(事務局)

衛生研究所の田坂です。お世話になります。結核については神奈川県域としてはここ数年で人口 10 万対についてはどんどん下がってきている状況です。ただ高齢者や外国籍の方の届出は増えてるか減ってるかというところですが、割合としては外国籍と高齢者が多いかなというのが、全国的にもそう言われているところなので神奈川県も全国と合っているのかなというところがございます。2019 年は集団的な感染かなというのもあったりするので、特定の保健所にとって多いところはあったかなと思います。あと o-157 については例年保育園の o-26 がこのところずっと続いておったのですが、今年は特にそういう事例もなく、幼稚園で腸管出血性大腸菌の事例はありましたが特発的に多いという事例は無かったのですが、無い中でも 20 代が多いというのは、生肉食べている人が多いのとかは、まだ分析が出来ていないのでまだわからないですが、たまに生肉食べたとか書いてあるのはお見かけしますので、もう少しそういうところは分析できたら良いかなと思っております。急性脳炎については、届出時にインフルエンザ A が病原体として検出されましたという届出があったところしか私たちには把握ができないので、その後治療がどうなったかとか、追記していただけてなくなりましたという事例ももちろんありますが、その後治療してどうなったかという経過については把握ができない状況なので、申し訳ございませんがよくわからないというお答えになります。このようなことでよろしいでしょうか。

(角田委員)

行政的に把握、インフルエンザの例なんかはぜひ臨床の先生方に書類報告でエビデンスを集めていただきたいと思います。結核に関しては現時点での対策がかなりやられていて落ちてはきているのですが、外国人と高齢者が多いものに対策をもう少ししていかないと思うのか、現状で十分なのか、その辺はいかがでしょうか。

(事務局)

保健師の研究会が午前中があったが、保健所の方が高齢者施設に介護職の方がまだ結核なんかあるのと発言があった。そういうところをもう少し啓

発普及していかないといけないんじゃないかという発表もあつたりとかして、やはり高齢者施設や介護施設で結核患者が出ると接触者健診が多数になつたりとかもあつたりして、そこらへんは保健所ごとに啓蒙普及はしたいという発表もあつたくらいなので、やっていかななくてはいけないかなと思つている次第です。

(森会長)

ありがとうございます。ほかにご質問がある方はいらっしゃいますか。

(多屋副会長)

2018年の5月から急性弛緩性麻痺が全数届出疾患になりました。2018年はエンペロウイルス D-68 がかなりたくさん検出されまして、その時期に一致して急性弛緩性麻痺の報告も全国的には多かったですのですが、これは実はポリオの根絶を目指す、ポリオの病原体検査もしっかりやってみようというのももう一つあるんですね。WHOは小児人口10万人あたり1のNPが届けられているということをサーベイランスの室の指標にしておりまして、神奈川県の小児人口を考えると、それがいくつになるか私もすぐに計算できていないですが、それが担保されて2回の便の検査が実施されてる体制が整えられると良いなと今年は思つているのですが、何かそれにむかうための方策とか手立てとかありましたら教えていただきたいです。

(事務局)

できると良いかなと思つます。必ず感染症発生動向調査については、感染研のほうから急性弛緩性麻痺が出るとポリオの検査はどのようになってますかとか、実際どんなウイルスが出てますかとか、発見できましたかとか必ず返ってきますので、うちの方からも検体が入って検査をしたことについては回答をして情報収集ができるように協力をさせていただいている状況であります。

(多屋副会長)

大変ありがとうございます。届出いただくとお一人お一人お問合せすることが多くて、お忙しいところ大変申し訳ないと思つています。去年全国的に報告数が凄く少なくて、一昨年の半分くらいの数字しかないのここをもう少ししっかりとやっていかないといけないなと思つます。どうもありがとうございます。

(森会長)

ありがとうございます。ほかにご質問はありますか。

(笹生委員)

性感染症の中で梅毒というのは全国的に増加しているんですね。神奈川県の方で啓発とかをされていることはありますか。

(事務局)

梅毒については昨年度からになるんですが、啓発というかHIV検査と併せて梅毒検査を実施できるよう制度を変えて、今までHIVだけだったものを梅毒をセットで出来るように変更しているところでございます。

(笹生委員)

ありがとうございます。

(森会長)

ありがとうございます。ほかにご質問がある方はいらっしゃいますか。感染症の動向に関してはやはり少し基本の問題ですね。RSウイルス、私も小

児科でありますので前倒しになっている現象とか、以前と違って動向が読めなくなっていることも実際ありますので、季節でこの疾患が流行するという常識が覆されるようなこともありますから、こういう調査はとっても大事だと思うのですが、また引き続きこのようなデータをとっていただければと思います。他にどなたかございますか。よろしいですか。最後に委員の皆さまから何かございますか。もしよろしければ共有のことで私からなのですが、せっかく高崎先生もいらっしゃっているので、新型コロナウイルスの検査の体制が神奈川県の中でどうなっているかをお話していただければと思うのですが。

(高崎所長)

感染研から先週の金曜日にプライマーだけ送られてきたのですが、前からある PCR の検査が出来るようになって、昨日リアルタイムの PCR のプライマープローブとポジティブコントロールが来たというところで、感染症学会も 1 月 28 日に出来ると言っており、九州の人は怒っていると思うが 1 日ズレることが多いので。リアルタイムの方でうちの所でも陽性が出るというのは確認していますので来週には本格稼働というところになるかなと思います。今の状況をみると通知では肺炎というキーワードが付いているが、付けない方がよい状況かなとは思。通知も変わってくると思うが、症例によっては個別に対応せざるを得ないかなと考えています。

(森会長)

ありがとうございます。もう一つ、立川先生もいらっしゃって、まず重症な患者さんがいらっしゃったら立川先生のところに行かれるのではないかなと思うのですが、立川先生の場合、体制として何かお困りの点とか県の体制にお話するところとか何かございますか。

(立川委員)

ありがとうございます。横浜市民病院の立川といいます、ご存知のとおり患者さんの約半分近くが武漢というか湖北省以外にも患者さんがいらっしゃるという状態ですから、母集団からみると薄まってはいると思いますが、武漢というキーワードがなくて帰ってこられた中国の方、中国から帰ってきた方達で症状があるとグレーゾーンで受け口が無いんですね。患者さんとしては診断もして欲しいし治療もして欲しいというところで、国の方は頑なに検査はしないというところがあって。各地に今プライマーとか色々配られたということなので、ひょっとしたら高崎先生が言われたとおり柔軟に対応していただけるようであればフィードバックできるのではないかと思います。実は新型コロナウイルス感染症というのは、MARS の時も SARS の時も日本人の方はなかったことがなくて、そういう意味では新型コロナウイルス感染症は今回初めてのことなので、毎回日本人が几帳面で色々心配性だから罹らないんだろうという話はやはり合っていると思うのですが、その裏返しでやはり中国から帰ってきた人たちが心配するのは当たり前の話ですから、柔軟に対応していけると現場としては物凄く助かる。たらい回しにされて最終的には受付してくれなくても、患者さんは明日にしようと思わない。よって病院に飛び込んでくる。飛び込んでこられても慣れていないところは慣れているところに送るということで、送られるのは全然構わないのですが、その先が無いと我々も途方に暮れるし、患者さんも可哀想なので、キャパシティ等みながら検査を柔軟に対応していただければ、横広がりといいますか、東京都などは患者が多すぎて、どうしても基準にしがちではあるが、こういうことについていうと物凄くストリクトである。どうしてかという、緩めた場合、物凄く数が増えてしまう。その面では衛生研究所のキャパシティに応じて柔軟に対応していただければというものは、患者さんにとって住民の方にとって良いことではないかと思います。

(森会長)

とても貴重なご意見ありがとうございました。神奈川県という特性もありますし、高崎先生と立川先生のお話もありましたので、これからどういう体制をとるか、事務局の方も大変だと思いますけれどもご検討いただけたらと思います。他にご意見がありますか。

(笹生委員)

今高崎先生が言われていましたが、「肺炎」というキーワードが付いているのはPCRをやるのに必要であるということですか。

(高崎委員)

「肺炎」というキーワードが無いと、東京などは断っていると思う。

(立川委員)

基準が「熱」かつ「肺炎」。両方無いと基本断られる。

(笹生委員)

そうすると症状の無い人はこぼれてしまうのではないか。

(立川委員)

現場のファインプレーで救い上げられているだけで、厚生労働省の基準だけでやるとキャッチができないということだと思います。

(笹生委員)

ありがとうございます。

(森会長)

ありがとうございます。ほかにどなたか全体を通じてですけど、質問・ご意見のある方はいらっしゃいますか。

(北澤委員)

横浜検疫所長の北澤です。検疫所の立場で新型コロナウイルス肺炎について申しますと、私どもは水際で横浜港から入ってくる船、この前もクルーズ客船が入港キャンセルになりましたけれども、御承知のとおり2月7日施工予定だった「飛鳥」について、今準備を急いでいるということですが、水際対策については、特に横浜市その他自治体あるいは水際関係の方と連携してやる必要がありますので是非お願いしたいと思います。その中で水際対策に従事される方の不安の声が確かにあって、自分たちがハイリスクな方に触れる業務を行う時にどうしたら良いかといったような質問もあったりして、その辺は県民の不安に通じるところがあるのですが、専用ダイヤルを作っていたいただいたという事で、こういったものは貴重かなと思っています。是非お願いします。それと全く話は違いますが、オリパラの話でいいますと、情報提供となりますが、リスク評価書についてのご意見はまたさせていただきたいと思うのですが、私ども水際ということで、港湾の衛生調査ということで蚊を捕獲してウイルスを調べたりしている。各自治体も行っていると思いますので、そのあたりについて情報共有をしっかりとさせていただければと思います。

(森会長)

大切なご意見どうもありがとうございました。確かに横浜市は港があり直結していますので、是非ご助力をお願いいたします。他にどなたかご意見ありますか。

(多屋副会長)

先ほど申し上げれば良かったのですが、2月4日風しん予防の日に、確か神奈川県は凄くよくやって下さっているということで、表彰されることになっていると思いますので、是非その機運を高めていただくのに活用していただけたらと思います。

(森会長)

それは素晴らしい、良かったですね。それではよろしいでしょうか。本日は色々な議題を討論いただきましたが、それでは事務局の方に進行の方を戻したいと思います。

(事務局)

どうもありがとうございました。また委員の皆さまにおかれましては長時間、特に今回新型コロナウイルスに関する関係で、皆さま方と情報を共有させていただいたことと、色々なご意見をいただきまして、これから我々もわからない部分が多いので専門家の方々のご意見とかをこういった会とは別にお話を伺ったりといったことをさせていただきながら、県民のために施策を考えなければいけない時期にきていると思っておりますので、よろしく願いいたします。それではこれもちまして、「神奈川県感染症対策協議会」を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。